

## 【別紙様式】 3 ポリシーの見直しについて

部局名 人間共生システム専攻・共生社会学コース

### 1. 新ディプロマ・ポリシー

<p><b>教育の目的</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間共生システム専攻共生社会学コースでは、人間社会の社会秩序、社会変動、社会問題の解明に貢献する研究者や高度な専門性を備えた職業人の育成のための教育や研究指導を学生に提供する。</li> <li>・修士課程では、人間社会における社会現象や宗教現象、多文化社会での様々な社会問題や社会課題の解決などに関して、専門的な知識と理論を学んだうえでフィールドワークや社会調査の方法を習得し、共生社会実現のために諸問題の解決を図るための技能を修得する。</li> <li>・博士後期課程では、修士課程で培った専門的な知識および技能・研究方法を発展させながら、独創的かつ発展性の高い研究を実施し、共生社会実現のため諸問題の解決を図る研究者あるいは高度専門職業人としての能力を育成する。</li> <li>・人間共生システム専攻共生社会学コースは、本専攻・コースの教育の目的を達成し、所定の課程修了要件を満たした者に、履修した授業科目および研究テーマに応じて、修士（人間環境学）、修士（文学）、博士（人間環境学）、博士（文学）の学位を授与する。</li> </ul>
<p><b>参照基準</b></p>	<p>日本学術会議「大学教育の分野別質保証のための 教育課程編成上の参照基準 社会学分野、文化人類学分野、宗教学分野」を参照。</p>
<p><b>学修目標</b></p>	<p>修士課程</p> <p>A-1. （主体的な学び）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・深い専門的知識と豊かな教養を背景とし、国内外の先行研究のなかに自ら問題を見出し、創造的・批判的に吟味・検討することができる。</li> </ul> <p>A-2. （協働）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な知の交流を行い、他者と協働し問題解決にあたることができる。</li> </ul> <p>B-1. （知識・理解）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会学・地域福祉社会学・文化人類学・比較宗教学の専門的知識を持ち、広範な社会現象および特定の社会領域での記述法について説明ができる。</li> <li>・幅広い調査方法やそれらがどのように社会科学に应用されるのか説明ができる。</li> </ul> <p>C-1. （適用・分析）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パーティシパント・オブザベーション、インタビュー、アンケート、サーヴェイにより得られたデータの質的・量的分析ができる。</li> <li>・社会調査の姿勢に基づき様々な方法を正しく駆使し、さらにはその応用から実践への提言を行うことができる。</li> <li>・社会科学の論理的思考能力を基盤に新たな社会現象および社会実践へ</li> </ul>

## 【別紙様式】 3 ポリシーの見直しについて

の活用ができる。

### C-2. (評価・創造)

- ・社会科学の方法と論理的思考力を有し、表現能力(自分の意見を明瞭に述べる能力)とコミュニケーション能力(討論能力、他分野を理解する能力、語学)により、他の領域と交流することができる。
- ・問題の中身を良く吟味し、それを解決するための方法を提示し、実行する能力、またはチームを運営する能力を有する。

### D-1. (実践)

- ・自ら進んで課題に取り組む積極性を持ち、周りとの協力を進めながら問題解決に向けて努力する協調性を有する。
- ・問題解決にあたり様々なアプローチの可能性を考えることができ、共生社会学の視点から社会への還元を考える能力を有する。

### 博士後期課程

#### A-1. (主体的な学び)

- ・深い専門的知識と豊かな教養を背景とし、国内外・多分野の先行研究のなかに自ら問題を見出し、創造的・批判的に吟味・検討することができる。

#### A-2. (協働)

- ・多様な知の交流を行い、他者と協働し問題解決にあたることができる。

#### B-1. (知識・理解)

- ・社会学・地域福祉社会学・文化人類学・比較宗教学についての高度な専門的知識を持ち、広範な社会現象および特定の社会領域での記述法について説明ができる。
- ・幅広い調査方法、またはそれらがどのように社会科学に応用されるのか説明ができる。

#### C-1. (適用・分析)

- ・特定の社会科学の領域で、既存の方法論を超えた創造的な研究方法により、研究者として自立した研究活動ができる。
- ・パーティシパント・オブザベーション、インタビュー、アンケート、サーヴェイにより得られたデータを質的・量的分析し、研究の成果を生み出すことができる。
- ・社会調査の姿勢に基づき様々な方法を正しく駆使し、さらにはその応用から実践への提言を行うことができる。
- ・社会科学の論理的思考能力を基盤に新たな社会現象および社会実践への活用ができる。

#### C-2. (評価・創造)

## 【別紙様式】 3 ポリシーの見直しについて

	<ul style="list-style-type: none"><li>・社会科学の方法と論理的・批判的思考力を有し、表現能力(自分の意見を明瞭に述べる能力)とコミュニケーション能力(討論能力、他分野を理解する能力、語学)により、他の領域と交流することができる。</li><li>・問題の中身を良く吟味し、それを解決するための方法を提示し、実行する能力、チームを運営する能力、後進を育成する能力を有する。</li></ul> <p>D-1. (実践)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・自ら進んで課題に取り組む積極性、国際的活動に対する実践的意欲を有する。</li><li>・問題解決にあたり、蓄えた知識、他者との交流から、様々なアプローチの可能性を考えることができ、共生社会学の視点から社会への還元・貢献を考える能力を有する。</li></ul>
--	--

## 2. 新カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーを達成するために、別表(カリキュラム・マップ)の通り、教育課程を編成する。

### 【コースワーク】

#### 修士課程

修士課程では、人間環境学府共通の「特別研究」を必修科目とする。加えて、コース開講科目を履修することにより、社会学・地域福祉社会学・文化人類学・比較宗教学の基礎知識と研究スキルを包括的に学習する。また修士課程共通科目では、専攻を跨いだ学際的な授業科目を通して、専門性を高めると共に学際性の基礎を養う。

#### 博士後期課程

博士後期課程では、主指導教員による「博士論文指導演習」を必修科目とし、研究者や高度専門職業人として自立するための実践的な学習を行う。また専門分野ごとに開講される授業科目や分野横断的な授業科目を選択科目として履修することにより、専門的・学際的な研究能力を培う。

### 【研究指導体制】

#### 修士課程

共生社会学コースでは複数指導教員体制をとっており、学生は自分の所属する専攻から主指導教員1名、副指導教員1名を選定する。主指導教員は研究指導及び論文作成指導を行い、副指導教員は主指導教員を補佐する形で研究及び論文作成の支援を行う。

## 【別紙様式】 3 ポリシーの見直しについて

### 博士課程

共生社会学コースでは複数指導教員体制をとっており、学生は自分の所属する専攻から主指導教員1名、副指導教員2名を選定する。主指導教員は研究指導及び論文作成指導を行い、副指導教員は主指導教員を補佐する形で研究及び論文作成の支援を行う。

#### 【学位論文審査体制】

### 修士課程

修士論文については、人間環境学府の学位論文評価基準として設けられた6つの評価項目（1. 研究と論文執筆の主体性、2. 研究の学術的・社会的貢献度、3. 研究の位置づけの明確さ、4. 研究方法の適切さ、5. 論理性、6. 研究倫理への配慮）を基に、主指導教員及び副指導教員が総合的に評価し、その評価を基に得点と合否を決定する。

### 博士後期課程

博士論文については、人間環境学府の学位論文評価基準として設けられた6つの評価項目（1. 研究と論文執筆の主体性、2. 研究の学術的・社会的貢献度、3. 研究の位置づけの明確さ、4. 研究方法の適切さ、5. 論理性、6. 研究倫理への配慮）に基づき、論文調査会において3人以上の論文調査委員が総合的に評価し、最終試験の合否を決定する。

#### 【継続的なカリキュラム見直しの仕組み（内部質保証）】

本コースにおける学修目標の達成度は、以下の方針（アセスメント・プラン）に基づいて評価し、その評価結果に基づいて、授業科目内の教授方法や授業科目の配置等の改善の必要がないかを「教務委員会」、「評価委員会」において検討することで、教学マネジメントを推進する。

#### 《アセスメント・プラン》

学位取得を促進・支援するため、以下の方法により学生の学修目標の達成度を評価し、そのうえで必要な支援も行う。

### 修士課程

1年次の後期と、2年次の前期に実施する修士論文中間報告会において、学修目標の達成度を確認する。

### 博士後期課程

1年次に提出する「研究計画書」、2年次に実施する博士論文中間報告会において、

## 【別紙様式】 3 ポリシーの見直しについて

学修目標の達成度を確認する。

### 3. 新アドミッション・ポリシー

求める学生像	<p>人間共生システム専攻共生社会学コースの修士課程では、人間社会における社会現象や宗教現象、多文化社会での社会問題や社会課題の解決などに関して、専門的な知識と理論を学んだうえでフィールドワークや社会調査の方法を習得し、共生社会実現のために諸問題の解決を図ろうとする学生を求めている。</p> <p>博士後期課程では、修士課程で培った専門的な知識および技能・研究方法を発展させながら、独創的かつ発展性の高い研究を実施し、共生社会実現のために諸問題の解決を図る研究者あるいは高度専門職業人としての能力を獲得しようとする学生を求めている。</p>
求める学生像と学力3要素との関係	<p>共生社会学コースでは、以下のような資質を備えた学生を求めている。</p> <p>修士課程</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①人間社会における社会現象、宗教現象、社会課題に関する専門知識や分析技能</li> <li>②人間社会における社会現象や社会課題の解決などに対する関心</li> <li>③自らの考えを明瞭に伝える表現能力と問題解決へ向け他者と協働するコミュニケーション能力</li> <li>④高度専門職業人を目指す意欲と積極的姿勢</li> </ul> <p>博士後期課程</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①人間社会における社会現象、宗教現象、社会課題に関する専門知識や分析技能</li> <li>②人間社会における社会現象や社会課題の解決などに対する関心と深い探求心</li> <li>③自らの考えを明瞭に伝える表現能力と問題解決へ向け他者と協働するコミュニケーション能力</li> <li>④研究者や高度専門職業人を目指す意欲と積極的姿勢</li> </ul>
入学者選抜方法との関係	<p>一般選抜を実施する。選抜方式において、個別試験（外国語試験を含む）によって「求める学生像」に掲げられた能力と資質について総合的に評価する。</p>